



崎山小児科・院内報

Okero Kero通信

4月 2019年

第241号



崎山小児科がお勧めする予防接種

風邪などと違って、今の医学をしても治すことの出来ない病気が予防することが大切です。マスクや手洗いなど日常的な習慣や睡眠・食生活に気をつけた生活を送っていても、避けられない感染症は存在します。今年の1月から三重県で麻しんが流行しました。その発端は医療的行為を忌避する宗教団体の集団感染でした。病原体は人間の英知とは無関係に病気を起こします。少しでもその危険性から逃れられるのであれば、その手段を利用することが公衆衛生的に求められます。崎山小児科では、以下の予防接種を特にお勧めしています。

・年長児以降の三種混合ワクチン（任意接種）

乳幼児が定期接種として受けている四種混合ワクチンに含まれている百日咳の効果が5年から10年程度で弱くなることがわかってきました。崎山小児科でも昨年の夏以降、小学生を中心に15名の百日咳の患者さんが来院されました。日本小児科学会も5～6歳と11～12歳で三種混合ワクチンを受けることを推奨しています。激しい咳が長引く百日咳はよく喘息と誤診されています。乳児がかかると死亡することもある怖い病気です。

・年長児以降のポリオワクチン（任意接種）

これも四種混合ワクチンに含まれていますが、多くの国々では5歳以降に追加接種が組み込まれています。長年にわたり日本国内でポリオ患者の発生がないことも事実ですが、近年でも国内の河川の水からポリオウイルスが検出されることがあります。海外から感染している人が入国しているということです。今年はラグビーワールドカップ、来年はオリンピック・パラリンピックと海外からの観光客が増加することが予想されますので、日本だけ安心とは言えないかもしれません。

・子宮頸がんワクチン（定期接種）

ワクチンの効果が報道されることはほとんどありませんが、副作用は広くマスコミが取り上げます。それは定期予防接種が国の施策なので「国の失態」として批判しやすく、被害者を生んだ悪は叩き潰せという図式が誰にでも共感を与えるからです。しかし、このままでは本来防げたはずの子宮頸がんが苦しむ人が増えてしまいます。現在も定期接種の対象となっていますので、是非接種を受けて下さい。

食物アレルギー



<食物アレルギーとは>

人の体にはウイルスや細菌など有害なものが体に入ってきた時にそれを攻撃して体を守ろうとする「免疫」という働きがあります。食物アレルギーはこの「免疫」が本来無害なはずの食物に過剰に反応し、様々な症状を引き起こしてしまう状態のことをいいます。

<症状>

じんましん、湿疹などの軽いものからアナフィラキシーショック（複数の臓器や全身に症状が起こり、血圧低下や意識障害を伴う状態で生命に危険が及ぶ反応）まで様々です。



・皮膚 - じんましん、湿疹、かゆみ、むくみ

・呼吸器 - 咳、ゼーゼーもしくはヒューヒューした呼吸、呼吸困難

・消化器 - 腹痛、嘔吐、下痢、血便

・粘膜 - 口の中がイガイガする、唇の腫れ、臉の腫れ、眼の充血、かゆみ

<対策>

以前の治療は食べさせないで除去することが中心でしたが、いつまでも食べないでいると誤食時に症状が強くなる場合があります。今は症状があっても少しずつ食べさせて慣らし、量を徐々に増やして食べられるよう治していきます。アレルギーの発症を予防するためにも食べる時期を遅らせるのではなく、早期から少しずつ食べさせるのが良いとされています。赤ちゃんの授乳と離乳食に関する国の指針が12年ぶりに改定され、卵アレルギーの予防のために初めて卵を与える時期が生後7～8ヵ月から離乳食初期の生後5～6ヵ月に前倒しされることになりました。

また、血液検査、皮膚テストの結果だけでアレルギーと診断されるわけではありません。食べてどんな症状が出るかで食物アレルギーかどうか判断します。本当に除去が必要な食物なのか、症状の程度に応じて対策を取ることが大事です。

また、湿疹があると皮膚のバリア機能が低下し、そこからアレルギーの原因物質が入ってアレルギーを引き起こすこともあるので、湿疹の治療とともに、皮膚に直接食物が触れないように食べる前にワセリンなどの保湿剤で膜を作って皮膚から入らないようにしましょう。

食物アレルギーは自己判断せず正しく診断することが大切です。心配な時はご相談下さい。



臨時休診 4/19(金)・4/20(土)

臨時診療 4/30(火・祝)・5/1(水・祝) 午前・午後診療します

今月のケロケロひろば 4月25日(木)待合室 14:00～16:00 ・ こいのぼりの工作 ・ 手あそびうた

